2009
JCI AWARD
ADVICE MANUAL

□JCI - Area B Conference
■JCI - World Congress

2009 国際アカデミー委員会
JAPAN JUNIOR CHAMBER, INC.

＜はじめに＞

このアドバイス・マニュアルは、2002 年度以降の社団法人日本青年会議所ＪＣＩ－ＡＷＡＲＤ担当委員会メンバーを中心に、ＪＣＩジャッジ経験者や他ＮＯＭの受賞アルバム等より情報収集・分析したものです。

本編は、皆さん方がエントリーする基本となるように、各国ＬＯＭと皆さんとのエントリー資料の作り方の差分を洗い出し、様々な情報をもとに調査・研究・精査をし、過去のＪＣＩアワードジャッジ経験者の意見・体験を反映させて編集してあります。

記載内容に於いては、主観的な表現が多々あるかもしれませんが、実際にＪＣＩアワードジャッジを経験したり、各ＮＯＭの受賞エントリーを解析した歴代担当委員会の熱意が込められています。

また、長期的な観点から考えると、国内褒賞システムをＪＣＩ－ＡＷＡＲＤシステムへ準拠し、各ＬＯＭの負担を軽減してＪＣＩ－ＡＷＡＲＤへの裾野を広げる施策が必要だと思われます。

どうか、今後のＪＣＩアワードエントリーの指針としてお使い頂けますようお願い申し上げます。

JCI AWARD ADVICE MANUAL　編集者一同

＜ジャッジの目から見た日本のエントリー＞

- 昨今の日本のＪＣＩアワードは、受賞することに主眼が置かれています。情報発信・事業の精査の場にしておらず、単に自己満足の世界に陥っており、何の為に行っているのか本末転倒です。ここが大きな間違いであると思います。

- 一生懸命に皆で議論して力を合わせておこなった事業ならば、仮に受賞できなかった時に一時的に悔しさは有ったとしても、その後にはすがすがしい満足感が残るものではないでしょうか。そのすがすがしさを、今までのアワードで何人のメンバーが感じたでしょうか。負けて悔いなし。これが優劣をつけられる時の我々ＪＡＹＣＥＥの真の姿なのではないでしょうか。

- 他国のジャッジが知っている日本の都市といえば、東京・京都・大阪くらいです。例えば同じ日本人同士なら札幌の雪祭りと言えばすぐに大きなお祭りで、大勢の観光客がやってくるとイメージできるし採点もしやすいのですが、他国の人にはそのイメージがなかなかつかめません。知名度が審査の点数に比例するとは考えにくいのですが、我々が持っている通常の感覚は捨てて、もっと世界中の人達に分かってもらうような内容にしなくてはならないと思います。

- 数では無く内容です。過去の国内開催の場合、ホスト国だから沢山受賞できるといったデマが飛び交っていました、１００％そんな事はありえません。そんな事が万が一にもあった場合、ジャッジは審査結果を知っているのですぐに不正が発覚します。

- 嘘・偽り・誇張は絶対にやめて下さい。でも、メンバーの参加率が１００％なんて現実的にはなかなか有り得ません。１００％例会でさえ難しいのに、どうして事業だけは１００％参加出来るのでしょうか。実際に、受賞したＬＯＭでは５０％前後の参加率でも受賞しています。

では、エントリーに関する基本的な事を理解しましょう。

＜申請事業対象期間＞

- 2009 年度の世界会議は、2008 年１月１日～2009 年 10 月 31 日の間に終わっている事業が対象の予定です。
- 継続事業の場合、その事業の主要な部分が上記期間内に終了している事業が対象となります。過去の経緯も重要ですが、今回の事業がどのような事業だったかが主な審査の対象になります。
- ＪＣＩへの申請締め切り日は、ＡＳＰＡＣの場合は 2009 年 10 月 2 日（金）です。しかし、締切日までに各エントリーに対してＮＯＭの会頭の承認サインも必要になります。このサインが無いとＮＯＭからの全ての申請が無効になります。今回は会頭認証作業と時差の関係上、日本ＪＣとしては

  明石標準時で **2009 年 9 月 28 日（月）23：59** を締め切りとします。
- 会頭が承認サインをすると、それ以降は日本ＪＣからの全ての申請・変更・削除が出来なくなります。くれぐれも締め切り日時を間違えないようにお願いします。

＜アワードカテゴリーについて＞

- カテゴリーは対象に合わせてＡ～Ｄの４つに別れています。
- カテゴリーＡ：ＮＯＭ。日本青年会議所の各委員会・会議、及び各地区・ブロックの委員会が当てはまります。
- カテゴリーＢ：ＬＯＭ。各青年会議所の委員会が当てはまります。
- カテゴリーＣ：個人。最優秀理事長賞・会頭賞などが当てはまります。
- カテゴリーＤ：特別賞。これは受賞した中からその年のＢＥＳＴ　ｏｆ　ＢＥＳＴを決める賞です。尚、この賞へのエントリーの必要は有りません。各カテゴリーにエントリーした時点で、自動的にカテゴリーＤへもエントリーされます。

＜カテゴリーの決定＞

- 最初に、事業内容に照らし合わせて、どのカテゴリーにエントリーするかを決めます。カテゴリーによってそれぞれ評価ポイント・配点が異なっているので、慎重にカテゴリーを決める必要があります。
- ジャッジは、審査を進める上で、「当該事業が適したカテゴリーにエントリーされていないと判断した場合は、より適したカテゴリに変更する権限を持っています。
- それぞれのカテゴリーにはどのような事業が賞に値し、審査の際の評価項目・ポイント（割合）がマニュアルに明記されています。マニュアルを良く読んでカテゴリーを決めて下さい。

＜エントリーフォームの基本＞

- 審査のメインはエントリーフォームです。ジャッジはエントリーフォームをとても重視しています。エントリーフォームの事業の表現が非常に分かりやすく、的確に思いを伝えたい事が素直に入ってくる、理路整然としたエントリーフォーム作り方をすべきです。

- 日本からのエントリーは、事業目的・プロセス・成果・効果等を具体的に記載せずに、感情面に訴える主観的な作り方をしている場合が多くみられます。「多くの感動を与えた」では評価対象外です。客観的に記載しないとダメです。

- 英語表記における起承転結、ロジカルに事業の目的、内容、プロセス、成果、効果などをシンプルに要点をまとめ、分かりやすい英語表記を心がけてください。新聞記事の表現手法を参考にしてください。限られた字数の中で、少しでも多くの内容を伝えるための工夫をしています。

- エントリーフォームは、論文のように書いてください。最初の数行で、何を伝えたいかを要約した後、その理由を箇条書きするスタイルが理想的です。皆さん作りやすいでしょうし、作りやすいと言うことは読む側も理解しやすいと思ってください。例を挙げるならば、ＪＣＩ－ＣＲＥＥＤは「Ｗｅ　Ｂｅｒｉｅｖｅ／我々はかく信ずる」から始まっていますよね？

- JCI の会員の男女比は女性の方が多いのは御存じですか？ジャッジの半分近くが女性である以上、もっと女性会員にアワード申請に参画してもらい、女性的なきめ細やかさ・レイアウト・感性・演出をもっと多くすべきです。又、全会員がアワードに対する知識・理解を深め、事業・取材・資料収集をおこなってください。

- ワケありだから、理事長命令だから。単にそれだけの理由で申請している所が多いと思われます。これでは場当たり的な申請になってしまい受賞出来ません。もっと LOM 全員がアワードを通じて青年会議所運動に対する知識・理解を深めて事業・取材・資料収集を行って下さい。

- エントリーする為に２年越しで準備する事も検討すべきです。事業が終わってから申請するかどうかを決めるのではなく、申請する前に議論を重ね、前年度に申請事業を確定してカテゴリーやレイアウトを決め、そのレイアウトに合った資料収集や写真撮りをおこなうべきです。

＜英語表記について＞

- マニュアルにはＪＣＩ公用語（英語、フランス語、スペイン語、日本語）で書かれていれば良いことになっていますが、日本ＪＣでは英語で書かれているものしか受付しません。これは、日本人ジャッジ以外で日本語が理解できるジャッジが殆ど居ないからです。又、自国の審査は禁止されている為、日本人ジャッジが日本からのエントリーを審査する事も無いからです。

- ジャッジの構成は世界会議の場合は５０名程度、ＡＳＰＡＣの場合は１５名程度になります。そのうち英語を母国語・共通語としているジャッジは半数程度と考え下さい。

- ジャッジが理解しやすい英訳にしてください。ジャッジはエントリーフォームを読んで理解し、頭の中にイメージを作り上げて添付写真を対比させて審査します。今までの日本からの申請書を見てみると、文語調で表現が硬かったり、長文による意味の取り違いや理解の困難さから、ジャッジの頭の中に明確なイメージが展開されていない場合が多々ありました。

- 英語での作成が悩みの種でしょうが、中学生～高校生程度の英語と考えて下さい。複雑な文法や表現、使い慣れない単語の使用は避け、正確で簡単で簡潔な読みやすい英語にしてください。

次に、エントリーフォームを記載するにあたってのテクニックを説明します。

＜アイキャッチ＞

- その事業がどれだけジャッジに理解されて印象に残るかが、受賞へ向けた大きなポイントの１つです。事業がどんなに素晴らしくとも、その事業が正確にかつ容易に理解し、ジャッジの頭の中に事業がイメージされない事には、高得点へは結びつきにくいと考えられます。

- また、数多くのエントリーの中から選ぶのですから、印象の薄い事業やエントリーもまた、高得点へは結びつきにくいと考えられます。その為にも、どれだけアイキャッチに優れているかが鍵になってきます。

- 最優秀地域開発賞であればエリア会議でも 30 申請以上、青少年活動賞でも同様の数が申請されます。そのうちまともな申請はその約半分、それを数日もしくは数十時間程度でジャッジは読みますので、クリアで印象的でなければ評価対象になれません。

＜メインタイトル＞

- 他ＮＯＭとの差別化をはかり、簡単かつ優れたアイキャッチ効果を得られるアイキャッチ効果が必要です。特にメインタイトルは、日本語の事業名をそのままローマ字にしたら、即落選決定です。よしんば英語に変えても、堅苦しい表現ではなかなか上手く意味が通じません。直訳するのではなく、イメージしやすい表現に置き換えるといいでしょう。最初の単語を見ただけで、全体像がイメージ出来るように心がけてください。出来が悪いとまず受賞は無理です。

- ジャッジが柔軟にイメージ出来る表現に変えるように工夫してください。でも、余りにもかけ離れた言い回しだと、変に解釈されてしまう恐れがあります。多少なりとも遊び心も取り入れて、柔軟な発想から英語表記を考えてください。洗練されたものもコミカルなものも、アイキャッチとしての効果は変わりませんし、十分に効果的です。

- 高松市赤灯台名称募集事業を例にしてみると、悪い例では最後まで読まなければ意味が分りませんが、良い例では最初の Naming Rights!だけを読めば命名権、すなわち名称募集事業としてその事業のイメージが膨らんできます。

  悪い例：Takamatsu city red lighthouse name collection project.
  ※（翻訳ソフトで変換した結果をそのまま掲載しています）

  良い例：Naming Rights! Takamatsu city red lighthouse.

  さらに印象的な例　Light Rights　（韻を踏んでいます。）

＜サブタイトル＞

- 文中に、適度なサブタイトルをつけると効果的です。例えば、作文を書く時には、起承転結の４段落を意識して皆さん書いていると思います。この段落ごとにサブタイトルをつけると考えてください。

- 長々と書いているだけの文章と、適切な段落ごとに、サブタイトル（簡単な説明）を記述した文章とでは、明らかにサブタイトルを付けた方が、見栄えも意味の理解度も数段優れます。

＜エントリーフォームの書き方＞

- 長文にせずに短文や箇条書きにして分けてください。箇条書きにすることにより、エントリーする側もジャッジする側も、少ない労力ですみます。

長文例：この「村おこし祭り」は、日本市と大和県の協力にて市民が１０００人集まった事業です。
This "MURAOKOSHI MATSURI" project is the enterprise for which 1000 citizens gathered by cooperation of Japanese City and Yamato Prefecture.

短文例：プロジェクト名：「村おこし祭り」。
協力：日本市・大和県。
市民参加：１０００人。
Project Name : "MURAOKOSI MATSURI"
Cooperation : NIPPON City and YAMATO Prefecture.
Citizen Participation : 1000.

＜テキスト整形＞

- 前述のメインタイトルと同様に、サブタイトルも出来るだけアイキャッチ効果が高い表記を心がけてください。特に、サブタイトルを表記する際に半角英数文字記号（以降 ASCII 文字）を使って縁取りし、アイキャッチ効果を高めてください。

- 同じように、サブタイトル以外でも段落を区切りたいなって思ったところで、ASCII 文字で段落を区切っても構いません。ただし、絵文字は厳禁です。

- ＪＣＩのマニュアルには ASCII 文字を使ってはいけないと何処にも明記されていません。近年の他ＮＯＭでは ASCII 文字を使って効果的に仕上げています。

例）　ASCII 文字を使ったサブタイトルのサンプル

```
====================
 Eye Catch Subtitle
====================

+--------------------+
| Eye Catch Subtitle |
+--------------------+

/// Eye Catch Subtitle ///
```

例）　ASCII 文字を使った区切り線

```
========================================
----------------------------------------
++++++++++++++++++++++++++++++++++++++++
////////////////////////////////////////
****************************************
```

次は、ＪＣＩのアワードマニュアルから抜粋した、整形前と整形後を比較しています。

＜テキスト整形前＞

1. TYPES OF AWARDS
There are four classifications of JCI awards:
GROUP A : Awards to National Organization Members (NOMs)
GROUP B : Awards to Local Organization Members (LOMs).
GROUP C : Awards to Individual Members
GROUP D : Special Awards and Regional Awards
2. ELIGIBILITY
All JCI national and local organizations may submit entries for JCI awards subject to the following provisions:
a. The NOM must have met its financial obligations and be eligible to vote at the Conference and Congress where the awards entry is being submitted.
b. Every NOM submitting awards entries and having more than ten of its members attending the Conference or World Congress must provide a minimum of one awards judge. Furthermore, NOMs submitting 20 or more awards entries must furnish a minimum of two judges, and NOMs submitting 40 or more entries must furnish three judges. All awards judges must be nominated before the Conference or World Congress. Normally, failure by any NOM to appoint at least one awards judge before World Congress will result in the automatic issuance of penalty points to all awards entries submitted from that NOM. However, the JCI President or awards chairman may grant a dispensation.
c. All Group III entry forms (from LOMs) should contain a certification by the NOM president that the LOM is a member in good standing and that it has been included in the declaration of membership last submitted to JCI.
3. WHO MAY SUBMIT ENTRIES
Submit entries as follows:
a. GROUP A: By a NOM only and subject to the following:
i. A NOM may submit an entry for each Group A award.
ii. A NOM may not submit the same project for more than one award.
b. GROUP B: By a LOM (with the certification of its NOM) and subject to the following provisions:
i. A LOM may submit only one entry for each award.
ii. A LOM may not submit the same project for more than one award.
iii. Any number of LOMs from one NOM can submit entries for the same Group B award.
iv. A NOM with only one LOM is eligible to submit a project for Group B awards. However, a LOM may not submit the same project for both Group B and Group A awards.
c. GROUP C: By a LOM (with the certification of the NOM) or by a NOM directly.
d. GROUP D: By a LOM (with the certification of the NOM) or by a NOM directly (if the award requires to fill an entry form).

＜テキスト整形後＞

==========
1. TYPES OF AWARDS
==========

There are four classifications of JCI awards:

GROUP A : Awards to National Organization Members (NOMs)
GROUP B : Awards to Local Organization Members (LOMs).
GROUP C : Awards to Individual Members
GROUP D : Special Awards and Regional Awards

==========
2. ELIGIBILITY
==========

All JCI national and local organizations may submit entries for JCI awards subject to the following provisions:
---
a. The NOM must have met its financial obligations and be eligible to vote at the Conference and Congress where the awards entry is being submitted.

b. Every NOM submitting awards entries and having more than ten of its members attending the Conference or World Congress must provide a minimum of one awards judge. Furthermore, NOMs submitting 20 or more awards entries must furnish a minimum of two judges, and NOMs submitting 40 or more entries must furnish three judges. All awards judges must be nominated before the Conference or World Congress. Normally, failure by any NOM to appoint at least one awards judge before World Congress will result in the automatic issuance of penalty points to all awards entries submitted from that NOM. However, the JCI President or awards chairman may grant a dispensation.

c. All Group III entry forms (from LOMs) should contain a certification by the NOM president that the LOM is a member in good standing and that it has been included in the declaration of membership last submitted to JCI.

==========
3. WHO MAY SUBMIT ENTRIES
==========

Submit entries as follows:
---
a. GROUP A: By a NOM only and subject to the following:
i. A NOM may submit an entry for each Group A award.
ii. A NOM may not submit the same project for more than one award.

b. GROUP B: By a LOM (with the certification of its NOM) and subject to the following provisions:
i. A LOM may submit only one entry for each award.
ii. A LOM may not submit the same project for more than one award.
iii. Any number of LOMs from one NOM can submit entries for the same Group B award.
iv. A NOM with only one LOM is eligible to submit a project for Group B awards. However, a LOM may not submit the same project for both Group B and Group A awards.

c. GROUP C: By a LOM (with the certification of the NOM) or by a NOM directly.

d. GROUP D: By a LOM (with the certification of the NOM) or by a NOM directly (if the award requires to fill an entry form).

※これは、あくまで例です。皆さんのテキストに合った整形をしてください。

次は、添付写真について説明します。

＜添付写真の基本＞

- 添付写真は、エントリーフォームに記載されている内容の証拠資料・補完資料です。できるだけ写真等、ビジュアル的に訴えかけるものを入れるようにし、添付写真内の日本語の資料（新聞記事、パンフレット等）等には、必ず英訳のキャプションを付けてください。

- 添付写真は報道写真を見習うべきであると考えます。１枚の写真に伝えたい全ての事柄が入っている写真。それが報道写真の原点です。沢山の写真の中から添付する写真を選ぶ時の基準として、報道写真のように見ただけで思いや内容の全てが理解できるような写真を採用すべきです。

- 地元新聞社を訪れ、報道カメラマンから写真の撮り方、構図の決め方などをレクチャーしてもらってください。格段に写真のクオリティーが上がります。写真のクオリティーが上がると言うことは、伝えたい事柄がより明確に伝わりますから、高得点を取り易くなります。

＜添付写真のサイズ＞

- 添付する写真のサイズには規定がありませんが、巨大なサイズの写真が多く添付されていた場合、国によっては通信回線のインフラの関係で、ジャッジがダウンロードする際の障害になります。最悪の場合にはジャッジがダウンロードを諦めて簡単にジャッジしてしまう恐れがあります。その場合は、高得点は期待できないでしょう。

- 添付写真は出来るだけ横スクロールをせず、縦スクロールで閲覧できる構成にし、実際の写真サイズを横８００ピクセル程度にリサイズしたものをお勧めします。

- 広範囲にわたりスクロールするような巨大な写真は、意とは反して心証を著しく悪くする可能性があります。ルールでは、添付写真のサイズについての減点は明記されていません。しかし当然のことながら、大きすぎても小さすぎても見づらいものは良くありません。

- 写真は、１ページに最大４枚を添付する事が出来ます。しかし、複数枚の写真をコラージュしたものを１枚の写真として添付する事が出来ます。又、写真・資料等にはキャプション（注釈または説明文）を書き込んで下さい。

＜添付写真全般＞

- 写真以外に、資料・書籍・パンフレット・会報・見積書・プライスリスト等、証拠資料・補完資料として価値のあるものを、添付写真として使うことが出来ます。

- 長文・何行にも渡る説明文ではなく、キャプション的な文章や補完説明にしてください。

例）　今までの説明文

1．何十行にもわたり事業説明をしている。

2．事業の説明はエントリーフォームに記載されている筈である。

3．添付写真にも説明文がズラズラと書かれている。

要は見づらい。

今後の説明文

1．写真・資料・書籍・パンフレット・会報・見積書・プライスリスト等の証拠資料・補完資料の補足説明を主体に記載する。

2．ジャッジがエントリーフォームを見てイメージしているものを、より具現化する為の補足説明を明記する。

＜写真の撮り方＞

- 添付写真はその事業の証拠資料として存在します。その証拠能力としての表現方法を日本はもっと濃くすべきであると思います。香港ＪＣの写真を例にとると、講演者・観客・タイトルと日付入りの横断幕がバランス良く入っています。日本ＪＣの写真は、殆どが講演者は講演者・観客は観客・横断幕は横断幕といった具合に全て分かれています。

- 写真はビジュアル的に非常に効果があります。事業内容を証明するには恰好の素材です。反面、撮影方法によっては証拠能力に欠ける場合が多いと思われます。しかし、撮り方によっては証拠能力を上げることが出来ます。

例）　今までの講演会の撮り方

1．殆どの写真がポートレート風に撮られている。

2．講師は講師、観衆は観衆、演目は演目、といった具合に別々に撮っている。

3．これでは証拠写真としての能力に欠け、ジャッジは申請対象期間に撮影されたものかどうか判断がつかなくなる。

今後の講演会の撮り方

1．写真にも目的を持った写真を撮る事。

2．講師・演目（横断幕・垂幕など）・観衆が１枚に入っている写真。

3．又は、演目と講師が１枚。講師と観衆が１枚。これは講師がリンク役になり２枚の写真が同一場所で撮影されたものと理解できる。

4．何時・何処で・誰が・何をしているかが分かるような写真がベストである。

5．写真には必ずキャプション（内容によっては日付・場所・講師名等）を入れること。

＜新聞・雑誌の切り抜き＞

- 新聞や雑誌などは、公的な証拠として非常に効果があります。スキャナーなどでＰＣに取り込んだ後に、フォトショップなどの画像ソフトを使って強調させてください。
- 該当記事を、赤線で囲むなどして強調してください。外国人ジャッジは日本語が理解出来ませんから、新聞・雑誌のどの部分が記事なのかが理解できません。でも、赤線で強調することにより、ここに記事が書かれているのだと主張する事ができます。
- キャプションには、記事の要約を英訳して記載してください。
- 更に、何年何月何日発行かもあわせてキャプションに記載してください。
- 新聞の画像データを載せるページには、必ず発行部数と配布エリア半径何キロで表すこと、そうしないと外国人に値打ちが解らないので、得点に結びつきにくい。

例）　今後の新聞の切り抜き

1. 記事には必ずキャプション（日付・新聞名等）を入れること。
2. 記事の概略を英語表記すると共に、参加人数・総予算・目的・結果等のキーポイントを赤文字・マーカー・**太文字**・下線等により強調する。
3. この事により、ジャッジの思考の中にキーポイントを埋め込むことができ、的確・明確な理解・判断をうながせる。

＜ジャッジの基本＞

- ジャッジは決められた期間内に、決められたエントリーフォームを事前審査します。2009 世界会議の場合 10 月 2 日に締め切られて、通常 10 月 15 日～10 月 19 日ごろの日程でジャッジ専用のパスワードが配布され、各自のＰＣで個別に事前審査しました。。

- ジャッジは、エントリーフォームに記載されている内容を元にして、事業目的、事業概要、事業成果等を把握し、その事業を頭の中にイメージします。この時のイメージが明確なほど、事業に対する理解度が高くなり高得点に結びつきます。

- 事業の全体像を掴む事ができ、且つ簡潔にまとめられたエントリーフォームを作ることにより、的確に意を伝えられます。その為には、何を言いたいのか一目で分かるように的確に要点を押さえ、もっと理路整然とした作り方をすべきです。（主観はダメ）

＜ジャッジ方法について＞

- アワード審査会は、チェアマンのもと各国から任命されたジャッジで構成されています。チェアマンは多くの場合次年度 JCI 会頭です。（彼のミッションは世界中の事業を把握すること）

- 審査は２から５名程度の小グループに分けられ、この小グループでひとつのカテゴリーにエントリーされた全て（少ないと１つ多いと 40 近い）を審査します。

- また、ジャッジは出身ＮＯＭの審査にあたる事は禁止されていますので、カテゴリーに自国のエントリーがひとつでも入っていた場合、そのジャッジはそのカテゴリーの審査からはずされ、代わりに他のジャッジが入ります。（この原則を守ると日本、香港、韓国などは審査するカテゴリーが無くなる為、一つのカテゴリーを半分程度に分割し、出身 NOM のエントリーを抜いた形で実際の運営がされています。ですので、日本の申請はモンゴルやパキスタン、オーストラリアなどのあまり申請していない国の審査員が多くみている傾向にあります。）

- 審査は共通の審査用紙を用いて行われます。その審査用紙は下記のような構成になっています。

例）　Ｂ．１２　青少年開発賞に下記６ＬＯＭからエントリーがあった場合

賞の番号：			賞の名前：　青少年活動賞						
評価ポイント→ 申請ＬＯＭ名↓	A 20%	B 15%	C 40%	D 10%	E 10%	F 5%	G %	H %	TOTAL =100%
1　JCI ソウル	20	13	32	10	8	4			89
2　JCI ビクトリア	15	12	35	7	6	2			82
3　JCI シティ	12	12	38	5	8	3			78
4　JCI 東京	**20**	**14**	**39**	**8**	**8**	**5**			**94**
5　JCI 台北	12	8	32	10	8	2			72
6　JCI マカオ	13	10	34	10	10	3			87

Ａ＝全体的な計画、実施、財務　Ｂ＝会員の参加率　Ｃ＝地域社会への貢献度　Ｄ＝組織への貢献度　Ｅ＝プログラムの継続性　Ｆ＝補助資料

- 上記の審査の結果、６ＬＯＭからの申請のうち、東京ＪＣのエントリーが最高点で受賞と言う結果になります。尚、このカテゴリーの審査には東京ＪＣのエントリーが含まれているため、日本のジャッジは審査にあたりません。

＜ページの採点割り振り＞

- カテゴリ毎に規定されている評価ポイントの割合に応じて採点をします。
- 例えば、「Ｂ．１２　青少年活動賞」へエントリーする場合は

  １．全体的な計画、実施、財務 ‥‥‥ ２０ポイント
  ２．会員の参加率 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥ １５ポイント
  ３．地域社会への貢献度 ‥‥‥‥‥‥ ４０ポイント
  ４．組織への貢献度 ‥‥‥‥‥‥‥‥ １０ポイント
  ５．プログラムの継続性 ‥‥‥‥‥‥ １０ポイント
  ６．補助資料 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　５ポイント

  というページ採点構成になります。

- この構成で注目したいのは、３．地域社会への貢献度のポイントです。全体の４０％を占めていますので、ここでいかに高得点を得るかがキーポイントとなります。他の部分で手を抜くと言う訳ではなく、絶対に高得点を捕らなくてはならない部分であると認識してください。
- だからといって、抜けている部分があれば、『やるきなし』と審査員は判断します。

＜まとめ＞

- 嘘、偽りは絶対にやめましょう。そんなことまでして受賞するのに何の意義がありますか？
- 女性会員の意見・感性を積極的にドンドン取り入れてください。
- エントリーフォームは客観的に理路整然とした書き方でなければダメです。。
- 英語表記は、正確で簡単単語・表現で簡単明瞭におこない、読みやすい英語を心がけてください。
- エントリーフォームのはじめに結果を提示し、その後に内容を列記すれば効果的です。
- 添付写真は、エントリーフォームの証拠資料・補完資料として存在します。
- 写真等の添付資料には、必ずキャプションやキャッチコピー等の説明を入れてください。
- 英数記号を使って、アイキャッチに富んだテキスト整形をしましょう。
- エントリーフォームは読んで理解するもの。添付写真は見て確認するものと解釈して下さい。

  実際には、写真をまず眺めて全体の雰囲気をつかむことも多いので非常に写真は大事です。
- 作りやすい！は、理解しやすい！と言う事です。読み手への OMOIYARI が大切です。

＜編集後記＞

このアドバイス・マニュアルは、2002 年度（社）日本青年会議所褒賞委員会第３小委員会にて作成し、加筆・訂正を毎年おこなってきました。ＡＳＰＡＣ及び世界会議に向け少しでも皆様のお役に立つ為に、ＪＣＩアワードジャッジ経験者の意見を中心に編集しました。文中の表現で主観的な表現がありますが、ジャッジ経験者が肌で感じ実体験した事なので、参考になればと思い掲載しています。

各ＬＯＭにて、質問・詳細なレクチャー等のご依頼が有りましたら、ＬＯＭサービスの一環として対応させて頂きますので、下記の連絡先まで何なりとご連絡下さい。

尚、香港ＪＣのアルバム写真が貼付されている場合、本来香港ＪＣでは門外不出の機密資料として扱われているアルバムからのデーターです。又、本書で使っている香港ＪＣのアルバム写真の著作権は全て香港ＪＣにありますので、添付写真のデータの外部漏洩には十分に注意を払ってください。

２００５年４月１日より個人情報保護法が施行されています。コンプアライアンス（法令順守）を必ずお守り下さい。

＜このマニュアルに関する質問・連絡先＞

砂川武彦（すながわ　たけひこ）

〒７６０－００１３
香川県高松市扇町２丁目１－２５　　有限会社 夢源　常務取締役　　携帯：０９０－２７８９－７９３９
（仕事の関係で出られない場合があります。その場合は、留守電にＬＯＭ名・お名前・メッセージを入れておいてください。折り返しお電話をさせて頂きます）
e-mail:st_marriage_japan@ybb.ne.jp

経歴：高松青年会議所　シニア
２００２日本ＪＣ　褒賞委員会委員
２００２ＡＳＰＡＣ仙台ジャッジ経験者
２００３高松青年会議所　シニア

２００３京都会議　ＪＣＩアワードセミナー講師
２００３日本ＪＣ　褒賞委員会　ＪＣＩアワードセミナー講師
２００４京都会議　ＪＣＩアワードセミナー講師
２００４日本ＪＣ　褒賞委員会　ＪＣＩアワードセミナー講師
２００５日本ＪＣ　グローバルモラリティ推進会議　ＪＣＩアワードセミナー講師
２００６日本ＪＣ　ＬＯＭ情報・活動支援委員会　ＪＣＩアワードセミナー講師
２００７日本ＪＣ　国際アカデミー委員会　ＪＣＩアワードセミナー講師
ＪＣＩ－ＡＷＡＲＤアドバイスマニュアル　執筆責任者

佐藤修一郎
〒530-0001　大阪市北区梅田 2-5-1　サンケイビル別館１階　佐藤歯科　院長　携帯 090-1711-6336
e-MAIL　ddsshu@yahoo.co.jp
経歴　　大阪青年会議所　特別会員　日本青年会議所シニアメンバー　JCI セネター
2001（社）大阪青年会議所入会
2002（社）日本青年会議所　褒賞委員会　JCI 褒賞担当
2004（社）日本青年会議所　褒賞委員会　JCI 褒賞担当
2005（社）日本青年会議所　グローバルモラレティ推進会議　JCI 褒賞担当
2006（社）日本青年会議所　国際アカデミー委員会
2007（社）日本青年会議所　国際アカデミー委員会　JCI 褒賞担当
2008（社）日本青年会議所　国際アカデミー委員会　JCI 褒賞担当
2004　世界会議福岡大会　JCI アワード審査委員（ジャッジ）
2006　ASPAC マカオ大会　JCI アワード審査委員（ジャッジ）
2007　ASPAC チェンリー大会　JCI アワード審査委員（ジャッジ）